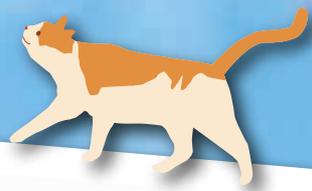


# えがお



## 協議体勉強会から 新たな介護予防活動が誕生

～鴨生町  
ふれあいラジオ  
体操～



## 一つの事例が地域をつくる 〜筑豊ブロック市町村社協連絡協議会役職員研修〜

10月29日（土）に、筑豊ブロック市町村社協連絡協議会主催による公開講演会を開催しました。

テーマは、「地域における「総合相談」の推進とコミュニティソーシャルワーク〜地域を基盤としたソーシャルワークの展開に向けて」で、講師には、大阪市立大学大学院生活科学研究科教授の岩間伸之さんをお迎えしました。

最初に、包括的な相談支援体制について話がありました。生



活課題を抱え、何らかの支援を必要としている方が相談できる体制を地域でどう作っていくのかを考え、相談がくるのを待つだけではなく、相談につながっていない方への早期アプローチも必要であることを学びました。「制度の狭間（すまひ）をつくった責任は、われわれソーシャルワーカーにもあるのでは」という投げかけが心に響きました。

次に、地域を基盤としたソーシャルワークを実践していくために必要なことや8つの機能について、詳しく説明いただきました。本人が生活する場で考え、支えていくプロセスにこそ意味があること、個別支援と地域支援を一体的に進めていく事が大切であること等を伺い、今の仕事を振り返ることができました。この公開講演会には、筑豊ブロック内の社協職員だけでなく、他ブロックの社協職員、地域包括支援センター及び相談支援センターの職員も参加し、ともにたくさんのご意見を学びました。

## 新しい社会資源をつくろう 〜協議体についての勉強会〜

11月7日（月）、第8回目の勉強会を稲築地区公民館で開催し、43名の方が参加しました。公益社団法人さわやか福祉財団の阿部かおりさんと竹下順一さんから、「新しい社会資源を作ろう」をテーマに話して頂きました。

まず、社会資源については、制度や設備、情報、資金の他、人的な資源も含まれているとの説明がありました。

他の市町村の取り組みをとおして、どのように支え合いの仕組みや居場所をつくっていくのかを学びました。

その後、中学校区ごとのグループに分かれて、課題を整理し、あったらいいなと思うこと（社会資源）をみんなでお考え、発表しました。

「車の運転が出来なくなっても、移動販売や買い物ツアーがあると便利だね」「空き家を利用した食堂やサロンがあるといいな」といった意見が出ました。

次回は、今回の勉強会で出た意見を、より具体化していきたいと思っております。ぜひ、ご参加ください！



平成29年1月6日（金）  
全体会「新しい地域づくりを  
実現していくために」  
【時間】13:30〜15:30  
【会場】山田市民センター

# みんなので支え合う地域を目指して

## 生活支援体制整備事業 啓発学習会

本会は、今年度の当初から協議体の設置に向けた勉強会を開催しています。地域の困りごとを話し合う中で、参加者の方から、いつ起こるかわからない災害に備えた取り組みが必要ではないかとの声がありました。

そこで、11月9日（水）、山田市民センターにて、災害をテーマにした啓発学習会を開催し、市内外から35名が参加されました。

講師には、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長の李仁鉄さんをお招きし、全国の災害現場で、ボランティアセンターの設置運営や復興期のボランティア・市民活動支援等に携わる中で感じたことについて話して頂きました。

災害の規模が大きければ大きいほど、家族や隣人などの同じ地域に暮らす方に救助されるケースが、全体の95%以上を占めていることや時間の経過とともに困りご

とが変わっていくなどを説明されました。

また、避難所の写真やエピソードを交えながら、避難されている方々の生活にも触れられ、子育てや介護が普段以上に大変になることや言い出しにくい困りごともあるため、それらに気づき、寄り添い、つなぐことも、同じ地域で生活しているからこそできる、大切な役割であることを強調されました。

災害が起きて慌てるのではなく、日頃から、一人ひとりが動ける準備や市民同士のつながりが、いざという時に声をかけ合う事のできる災害にも強い地域づくりにつながっていくことを、みなさんと共有しました。

参加した方からは、「普段の地道な活動が災害時に役に立つことがわかり嬉しかった」、「ご近所と顔なじみの関係をつくるのが大切だと感じた」などの意見があ

りました。  
今回の学びを、地域に住むすべての人が安心して暮らせる地域づくりにいかしていきたいと思えます。



## 成年後見Q&A



後見人の業務内容に介護も含まれますか？



介護や家事は、後見人の業務ではありません。ご本人の生活に必要なことであっても、直接後見人が行うのではなく、必要な福祉サービス等を利用することができるように行政機関やサービス提供事業者と調整し、契約等を行うことが後見人の業務です。

# 今月のブログ

本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いから、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。  
<http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/>

## 2016年11月5日(土) 歌って 踊って 楽しい音楽の時間

嘉麻北日中一時支援事業所で、「音楽の時間」を開催しました。利用している子どもさんのなかには毎月2回の開催を楽しみにしている方も多くいます。

今日は講師に自分の好きな曲をそれぞれ演奏してもらいました。

マイクを持って熱唱したり、踊りを披露したり、リズムをとったりと、みんな笑顔で楽しみ、あっという間に時間が過ぎていきました。(丁)

## 2016年11月6日(日)

### 嘉穂アルプス

嘉穂地区にある馬見山、古処山、屏山からなる、通称嘉穂アルプスが登山専門誌が選ぶ日本山岳遺産に認定されました。

九州では2件目だそうです。

写真を撮ることが趣味のNさんが、認定を記念して撮った写真を見せてくださいました。

貞月の遠賀川沿いから撮影されたそうです。(丁)



## ご案内

### 在宅介護者の集い

在宅で介護をされている方々が、いろんな情報交換をつつじて、楽しくリフレッシュしています。

- 平成28年12月8日(木)  
稲築住民センターにて(漆生878番地)
  - 平成29年1月12日(木)  
ふれあいハウスにて(上山田502番地6)
- ※時間はいずれも13時～15時までです。

### 嘉麻市認知症家族の会

認知症の方を介護しているご家族が集まり、お互いの体験や情報交換をしています。

- 平成28年12月17日(土)  
ふれあいハウスにて(上山田502番地6)
- ※時間は13時30分～15時までです。

### ひきこもり家族の集い

ひきこもりの家族を持たれている方々と、いろいろな悩みを話したり、情報交換をしています。

- 平成28年12月22日(木)
- 平成29年1月26日(木)

### フリースペース

家から一歩外に出て自由に過ごせる居場所です。特にプログラムはありません。

- 毎週木曜日 13時30分～15時30分
  - 平成28年12月1日、8日、15日、22日
  - 平成29年1月5日、12日、19日、26日
- ※ひきこもり家族の会、フリースペースの開催場所はいずれも寄ってこハウスで、時間はいずれも13時30分～15時30分です。

日時等が変更になることもありますので、事前にご連絡いただければ幸いです。

### 《お問い合わせ先》

嘉麻市社会福祉協議会  
 ☎0948・42・0751  
 E-mail: tiliki@kamasyakyo.com

## ご相談ください『空き家に関する困りごと』

嘉麻市社会福祉協議会が空き家管理住まいのサービスをはじめ、7年が経ちました。この間、空き家の問題は年々ひろがりを見せ、地域の困りごととして話を聞く機会も増えています。

本会は、空き家の所有者や近隣の住民の方に安心をお届けするため、月に一度、通風や通水、内外部、敷地のチェックを行う基本サービスと草取り、草刈り、庭木の剪定など希望に応じて行うオプションサービスを実施し、毎月写真付きで報告しています。

また、台風や地震などの有事後に巡回も行っていきます。以前、大雪で巡回した際に水道管の漏水を見つけて対処したこともありました。

空き家の管理でお困りの方、また近くに空き家があって防犯上の心配がある方などぜひご相談ください。

### 【対象家屋】

市内にあり、本人、配偶者、子または父母が所有者となっている家屋

※公営住宅や賃貸、商用物件は除きます。

### 【利用できる方】

①市外に住んでいる、②長期出張、転勤となった、③入院、施設入所した、などの理由で家屋の管理ができない方。

※利用にあたっては、本会の会員（年額1,000円）に加入することが必要です。

### 【サービスの内容と料金】

・基本サービス（通風、通水、内部・外部のチェック、有事後の巡回など）3,000円/月

・オプションサービス（掃除、庭の草刈り、剪定、近隣訪問など）

※内容によって、金額が異なります。事前に見積もりを行います。

### 【お問い合わせ先】

サービスの詳細についてのお問い合わせや利用のお申し込みについては、下記までご連絡ください。

嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

年末年始の期間は、休館いたします。

平成28年  
12月28日(水)から

平成29年  
1月4日(水)まで

連絡・問い合わせ先

山田ふれあいハウス  
嘉麻市上山田502番地6

☎0948-52-1847



10月8日(土)に、山田ふれあいハウスで開催した囲碁大会に市内・市外12名が参加し、熱戦が繰り広げられました。会場には、碁石を打つ音が響き、参加者の皆さんの意気込みが伝わってきました。相手との勝負が終わっても、他の対局を真剣な表情で見守られておりましたが、大会終了後には、和やかな雰囲気になりました。対局の話で盛り上がっていました。結果、優勝は芳中好博さん(下写真右)、準優勝は吉田均さん(中央)、第三位は田中弘光さん(左)でした。

山田ふれあいハウス  
からのお知らせ

## 消費生活相談員さんに聞きました!



訪問販売で購入した商品をクーリング・オフしたいと思っています。具体的な手続き方法について教えてください。



クーリング・オフは、定められた期間内に必ず書面で通知します。通知先はその商品を販売した会社です。クレジット契約を利用している場合、クレジット会社に同時に通知する必要があります。記入例や書式は、飯塚市消費生活センターにもありますので、ぜひご活用ください。なお、内容はコピーをとって保管し、「特定記録郵便」もしくは、「簡易書留」で郵送してください



飯塚市消費生活センター ☎0948-22-0857

# かま ボランティア 市民活動センター情報

平常時に災害ボランティアセンターがやるべきこと

10月28日(金)に、第20回かまボランティア・市民活動センター運営委員会を開催しました。今回は、委員の改選後初めての会議であったため、委員長・副委員長を選出した後、熊本地震における支援活動についての報告、センターとして平常時に取り組むべき活動などについて協議しました。

委員のみなさんからは、防災意識を高めていくために、サロンなどの会合で話し合う機会を作ってはどうか、子どもも含めて様々な世代が参加できる防災に関する行事を企画するのにも良いのではないかとといった意見が出されました。

また、訓練を繰り返して、より実態に即したマニュアルにしていく必要があるといった意見や様々な団体や機関に、災害ボランティアセンターのことを知ってもらおうことで、被災された方々とセンターとの

つなぎ役になってもらえるのではないかなど、事業をとおしたつながりづくりに関する意見もいただきました。

委員のみなさんからの意見を基に、これからの活動を見直していきたいと考えています。

センターでは、災害時に活動できるボランティアを随時募集しています。これまでの活動経験の有無にかかわらず、関心のある方はぜひご連絡ください。



## ボランティア・イベント情報

### もちつき交流会ボランティア

社会福祉法人嘉穂の里で開催されるもちつき交流会のお手伝いをしてくださるボランティアを募集しています。

記

#### 場 所

社会福祉法人 嘉穂の里園庭(所在地:牛隈1712-7)

#### 日 時

12月10日(土)  
9時30分~15時  
(雨天決行)

#### 活動内容

餅つきの補助

#### 募集締切

12月8日(木)

#### 備 考

動きやすい服装でお願いします。昼食は準備します。



### 子どもたちの遊び相手ボランティア

本会が実施する障がい児日中一時支援事業では、冬休み期間中に、子どもたちと一緒に遊んでいただける方を募集しています。

記

#### 日 時

平成28年12月23日(金)~平成29年1月9日(月)  
(12月29日~1月3日及び日曜日を除く)  
※午前8時30分~午後5時の間で活動可能な時間帯で構いません。

#### 場 所

嘉麻北日中一時支援事業所(鴨生339 嘉穂特別支援学校横)

#### 内 容

障がいのある子どもたちの遊び相手、宿題の補助など

#### 備 考

動きやすい服装、時間帯によってはお弁当、飲み物をご準備ください。

【お問い合わせ先・お申し込み先】かまボランティア・市民活動センター ☎0948-42-0751

# 今月の一冊

## なぜ若者は老人に席を譲らなくなったのか



著者／大林宣彦  
出版社／幻冬舎

公共交通機関を利用する時、身体が不自由な人や妊婦さん、高齢の方には席を譲らなければいけないという意識はあったのですが、声をかけて断られたらどうしようという思いや相手からしたら余計なお世話かもしれないという勝手な思い込みで躊躇してしまうことが何度かありました。本のタイトルを見た時に、席を譲らないことに共通した理由があるのだろうかという疑問からこの本を選びました。

筆者は、老人に席を譲らない若者を責めるのは間違っている。責任は、長く生きることの尊さを教えてこなかった大人にあると書いています。本の中にウクライナのチエルノ

ブイリでの出来事が書かれています。ある日、おじいさんが村を走るバスに乗ると若者たちが我が物顔で座席を占領し、年老いた人たちに譲ろうとはしないのです。おじいさんは若者たちに「君たちもやがて歳を取るんだよ。今の君たちにはわからないだろうけど、老人に席を譲るといいうことを覚えたほうがいいよ」と言いました。若者たちは反抗することもなく素直な顔で、「僕たちが歳を取って老人になるんだって？ ぼくたちは明日死ぬかもしれないんだよ」と答えたそうです。彼らはチエルノブイリの原発事故で被曝していたのです。日本において被曝した若者たちに座席を占領されているということは実際には起きていませんが、日本の若い人の多くが希望を失い、明日を信じることができなくなってきていると筆者は懸念しています。

希望を失ったことが、若者が老人に席を譲らなくなった理由と決めつけるのは難しいですが、譲らないことがだめなのだと思ってしまうのは、なぜそのようになっただのか原因を知る過程が大切なのではないかと思えました。自分の思いや考えとは違うことを否定するのではなく、ほかの人はどう思っているのだろうかと思うことで相手のことを理解するきっかけになると感じました。(とくなが)



# 炭鉦の記憶

No.117

今回の写真は、鴨生にお住まいの縄田さんから提供していたきました。写真に写っている方は、縄田さんが山野に住んでいた時に近所で特に親しくしていた姉弟だそうです。子ども頃は写真の広場で缶けりや縄跳び、相撲を取ったりして遊んでいたことや、近くの川や池でザリガニ、ゴヒナを取ったりしていたことを懐かしそうに振り返っていました。

また、この広場には紙芝居屋さんやアイスキャンデー屋さんや鐘の音で子どもたちが集まって来ていたそうです。紙芝居の上演の時には水あめを買って、二本の棒で練って、一番白くなった子にはおまけのお菓子がもらえていたそうです。

写真の左奥に写っている建物は



ポケットという中間貯蔵施設で、炭鉦から掘り出した石炭を一時的にためておいて、下に運搬する車が入来たらその荷台に石炭を入れる役割がありました。このポケットは山野の交差点付近にあり、その前の道は上三緒の方へ線路が通っていました。ポケットから来た車が列車に石炭を積み替えていく場所も近くにあっただけです。

この近くには踏切があり、一度列車と自動車の事故があったそうです。「列車の運行が止まるくらい大きな事故でね、子どもながらに恐いもの見たさで見に行った事をよく覚えていてよ」と印象深いエピソードを話してくれました。



# ふるさとの風景ポストカード

～年始の挨拶にもご活用ください～

嘉麻市社会福祉協議会では、4地区の昔懐かしい風景をポストカードにして販売しています（4枚1セット200円）。ふるさとを離れて暮らす家族や友人への年始の挨拶にぜひご活用ください。



雪の日吉峠を走る  
蒸気機関車（昭和45年）



東洋一といわれた三井山野第一堅坑  
（昭和30年頃）



上山田線の廃線まで木造駅舎で  
親しまれた臼井駅



昭和初期の大隈駅の町並み



## 取り扱い場所

嘉麻市社会福祉協議会事務局  
嘉麻市岩崎1143番地3稲築  
住民センター内  
☎0948-42-0751

カッホー馬古屏  
嘉麻市牛隈882番地1  
☎0948-57-2222



平素より地域の方々にご利用いただき、感謝申し上げます。  
今後も地域に根付いた葬祭場として、微力ながらもお役に立てますよう、社員一同知識の向上に精進して参ります。  
葬儀についてご不明な点などございましたら、お気軽にご来館、お問い合わせください。



嘉麻市平1133 ☎42-4420

## 指定葬祭場紹介

### おかむら葬祭 岡村会館

嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、おかむら葬祭を含め、市内に8ヶ所あります。

飛鳥会館 南斎場	☎42-4241	セレモニーホールおおつか	☎52-1212
きど葬祭やまさ碓井斎場	☎62-4499	かほ葬祭 あじさい会館	☎62-5566
ひさつね会館	☎52-0758	善光会館 稲築会場	☎83-5000
いすや会館	☎57-4444		

ふんふんへの手紙

No.130



枝坂出身  
埼玉県さいたま市在住  
てしば やすじ  
手柴 保司さん

「掃除当番と校歌」

昭和二十六年春、私は稲築町立平小学校に入学した。平小学校では当時、新生の教室の掃除は、三年の担当だった。私も、三年になった時、一年の教室の掃除に出かけた。

四年の春、父の職場の関係から、鴨生小学校に転校した。鴨生小学校では、一年の教室の掃除は、四年が担当。転校したばかりの私も、掃除に出かけた。

五年になった時、その時の四年は、昭和二十年生まれが大半で、一年のクラス数よりも四年のクラス数が少なく、そのために、五年の私たちのクラスにも、掃除担当の割り当てが回ってきた。

私は、またまた、一年の教

室の掃除に出かけた。小学三年に始まり、四年、五年までの三年間、一年の教室の掃除を担当した小学生は少ないと思う。ところで、ご存知でしょうか。

稲耕会稲築志耕館高校同窓会の名称「東京支部」では、稲築町の小中学校五校（平小、鴨生小、岩崎小、稲築東中、稲築中）の校歌を毎年合唱している。

同窓会のイベントの一つとして、それぞれの学校の卒業生を集め、校歌対抗歌合戦を行っている。学校を卒業して以来、三十年、四十年ぶりに校歌を歌う人も、歌い出せば体が覚えていて、各学校のメロディーで、大合唱になっている。この時ばかりは、みんな小学生、中学生になり切りたい顔をして歌っている。

今年十一月五日に、東京九段のホテルで開催された。もちろん、小中学校の校歌対抗歌合戦も行われ、大いに盛り上がった。

機会があれば、ぜひ稲耕会東京支部の同窓会に、遊びに来て下さい。

編集後記



(きはら)

筑プロ研修では、たくさんの学びがありました。その人らしく地域で暮らすことを難しくしているのは支援者ではないのか、自分自身に問いかけていきます。



(おがわ)

災害は、いつ、どこで起こるのか誰にも分かりません。体制整備事業啓発学習会では、災害をテーマに、日頃からのご近所との関係づくりの大切さを学びました。



(たけがわ)

遠方で暮らしていて、普段は空き家にしていても、年末・年始のみ帰省される方もおられるかと思えます。家屋の管理のことでお困りの方はぜひご連絡ください。



(あかま)

表紙のラジオ体操は、12月から日曜日以外毎日鴨生町で行うそうです。健康のため、また、交流のために、皆さんもぜひ参加されてみませんか？



(まる)

炭鉱の記憶で取材した、縄田さんは先日久しぶりに山野に行かれたそうで、「変わったところもたくさんあったけど、道を歩くと懐かしい気持ちになった」と言われていました。



(ますぎ)

第8回の勉強会では、防犯上の課題となりがちな空き家も、サロンや食堂などに活用すれば、1つの社会資源になるということを共有しました。



(とくなが)

今月の一冊で、日常の中にある出来事から現代の私たちが忘れてきていることは何かを考えさせられました。人と人との繋がりを大切にしていこうと思いました。

社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券（千円分）をプレゼントします。

問題

筑豊ブロック市町村社協連絡協議会主催の公開講演会で、講師の岩間さんは、個別支援と何を一体的に進めていくことが大切であると話されたのでしょうか。

- (1) 相談支援 (2) 生活支援 (3) 地域支援

●応募方法

- ①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、12月31日（必着）までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

●送付先

〒820-0205 嘉麻市岩崎1143番地3  
嘉麻市社会福祉協議会 E-mail:tiiki@kama.syakyo.com

●前号のクイズの答え (2)

碓井地区と山田地区と嘉穂地区の3か所

●応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

- ・表紙の運動会で、子どもたちが生き生きとしている様子が、感じられました。特に応援旗が立派でした。
- ・全体的にカラーの写真が取り入れられていて、読みやすかったです。ページ数も多すぎず文字も大きく見やすいと思いました。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。